

廃食物油をそのまま燃料として使用できるヒータとボイラーで、企業のコスト削減に貢献

企業コード：050065596 株東和（旭川市）

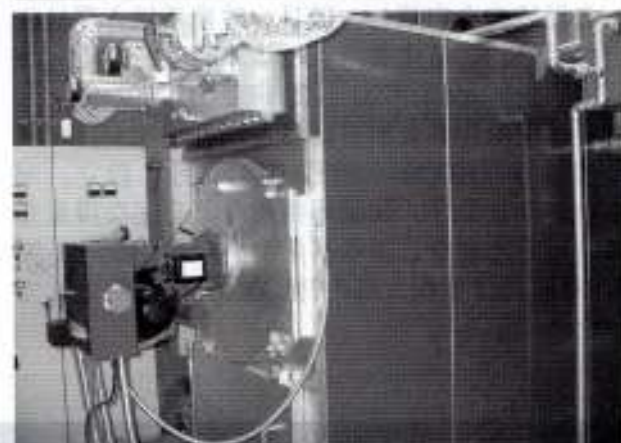
空調工事とそのメンテナンスを主に手がける株東和（旭川市）は、使用済み天ぷら油（廃食物油）を燃料とするハイブリット・ハウスヒータと温水ボイラーの販売・施工を行っている。同社がこれまでに設備を提供した企業では4件で「CO2国内排出権クレジット制度」の認定を受けているほか、今年度は2件で「温室効果ガス排出削減量連動型中小企業グリーン投資促進事業」の採択を受けた。道は、独自の政策として、道内の法人・任意団体及び市町村で構成された共同体などを対象とするエネルギー「一村一炭素おとし事業」制度により低炭素化の取り組みを支援しており、同社は、この制度への応募を予定している。

同社ハウスヒータと温室ボイラーは、道内にとどまらず、新潟や静岡、千葉、茨城など道外にも実績を上げており、今期は日本企業が中国を舞台に行うハウス事業への導入も予定されている。

東日本大震災の影響により、観光客の減少が危ぶまれるホテル業界では、固定費の負担が経営を圧迫しかねないが、小樽市で小樽朝里クラッセホテルを運営する株アンビックス（札幌市）は、株東和の技術を導入し、コスト削減を図った。同社は、老朽化した吸気式冷温水器に替えて鉍物系廃油と廃食油を適量混合して燃焼させるバーナー搭載の温水ボイラーを導入。ヒートポンプチラーと組み合わせることで、画期的な化石燃料の使用量削減を実現し、燃料費の大幅削減に成功した。

株アンビックスの吉田室長は、「東和の技術導入により、コスト削減を命題とする、この難局を乗り越えることができそうだ」と話す。

一方、東和では、今後のエネルギー循環対策として、使われなくなった農地での菜の花・大



株東和の温水ボイラーを導入した小樽朝里クラッセホテル（上）とハイブリット・ハウスヒータ（下）

豆等搾油可能な植物の栽培により、新たな雇用の創出と荒れた農地の回復という一石二鳥の効果を期待している。

「何も足さない、何も引かない、新たな廃棄物は一切出さない」を信念とする同社の取り組みは、化石燃料の使用量減少とほかの燃料への転換、原発問題などを抱えるエネルギー問題解決のきっかけのひとつとなる可能性を秘めている。

株東和

〒070-0073 旭川市曙北3条7-3-3

TEL：0166-24-1416

<http://www.towa-eco.jp>